

News

研究館グッズ販売開始!!!

生命誌という考え方で生命を見ていくと、なるほどと思うことが出てくる。そのことを皆さんに知らせたい。そう考えて展示、ビデオ、コンピュータゲーム、コンサート、実験室ツアーなど、さまざまな方法を考え、表現に工夫を凝らしています。

でも、この場に来ていただける方は限られています。そこで、BRHの一部を持ち帰って、生きものについて考えていただけるよう「研究館グッズ」を作りたいという願いは長い間あったのです。しかし、まずは館内。さらに、グッズの制作と販売を取り巻く状況など……。やっと少数ながら、研究館グッズと言えるものができ、体制もなんとか整いました。2000年10月から、館内でポスターを6種類、ポストカード8種類、2001年4月からは、展示図録、ビデオ3本、ペーパークラフト4点をお求めいただけます。ぜひ、手にしてみてください。

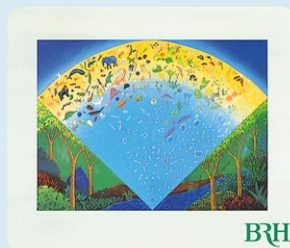
現在の生命科学研究を正確に、そして、なんとか親しみやすく、美しく伝えるものを作りたいという気持ちと工夫、それを魅力的に表現して下さる作者との協力が、今始まりました。これからも、時間と手間を惜しまずにオリジナルなものを工夫していきたいと思っています。年齢や文化を超えて受け入れられるものだと思いますので、世界へ向けての発信へと展開していきたいと思っています。

飛び出せ研究館グッズ!という思いで、また、次のアイテムに取り組みます。

(工藤光子/本誌)

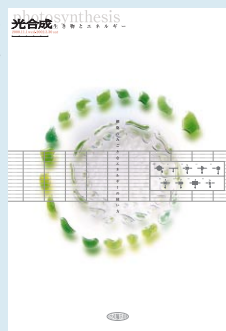
①	ポスター	3,800円
	ポストカード	200円
②	マウスパッド	600円
③	展示図録	1,200円
④	BRHビデオ	3,800円
⑤	ペーパークラフト	1,800円
⑥	ポストカード&ペーパークラフト	400円

通信販売も行なっております。
お問い合わせ先: 0726-81-9750(代表)
*ご来館の場合には上記値段より安くお求めいただけます。



②生命誌研究館のシンボル「生命誌絵巻」をマウスパッドに。薄くて滑らない優れ物です。

③本号の特集でもある光合成の展示「光合成 生き物とエネルギー」展(～2002.3.30)の図録。

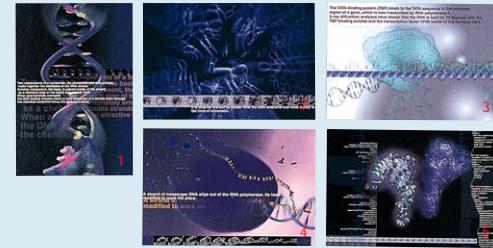


④生命誌研究館のビデオからまずは3本。
1.DNAが描くオサムシ新地図 進化の新しい原理を探る
2.DNAって何? Part I
3.ゲノム伝 大胆に変化してきた38億年



⑤紙でつくるDNA二重らせん(The Double Helix Paper Model Kit)。DNAの二重らせんを自分で組み立ててみよう!

①ありそうで意外にない「科学のきれいなグラフィック表現」を集めてポストカード(1-8)とポスター(1-6)にしました。コンピュータグラフィックス「DNAって何?」を元に5種類、「生命の樹」展から系統樹を元にした作品を3種類。



⑥30円切手を貼って郵送が可能なペーパークラフト。オサムシ・ショウジョウバエ・ナナフシの3種類。(写真=坂本政十賜, ③図版協力=PICTO INC.)



Editor's note

生命誌のさらなる展開を願って よ日常へ

生命誌研究館も、設立以来7年半が経ち、メンバーそれぞれが自分の特徴を生かし、楽しく仕事ができる場になってきた。ここで考える。生きものは、いつも変化し続け、新しいものを産み出していかなければ生きていけるとはいえないということ、そして、そのためには次の世代に充分育ってもらい、パトタッチをする準備をしなければいけないということだ。

この雑誌『生命誌』も30号を迎え、おかげさまで、とても楽しみにしている、質の高さと美しさが一体となっていて魅力的だ、などという応援が増えてきた。一方、相変わらず聞かせるのが、難しい、という声だ。これはまさに難題だ。これまでの号を振り返って、扱ったテーマは、生きもの研究として重要であると同時に、誰にでも楽しめるものを選んできたと思う。また、どのページも、一つ一つの文章、写真などをすべていねいに扱い、わかるもの、メッセージのあるものにしたつもりだ。しかし、対象が直接手で触れられない、時には顕微鏡でも見えない小さな世界であることが多いので、日常感覚に訴えるのが難しくなっていることも確かだ。じつは、30号までをじっくり見ていただくと、この小さな世界がなんとなく実感できる感覚が生まれてくることを狙ったのだが。

そこで、今回は「光合成」というテーマを、これまでのような隠し味風でなく、より強く出す試み

をした。新しいシンボルマークに表現したように、生活や科学技術、芸術、思想との連携も考えてのテーマ選択でもある。さまざまな側面からの光合成へのアプローチを試みるわけだが、そのみごこさを実感しようとする、どうしてもミクロの世界へ入って行かざるを得ない。そして困ったことに、二酸化炭素と水と太陽エネルギーで糖を作り、その際に酸素を出すという、もっとも簡単な物質のやりとりを支えるメカニズムが、なんととも巧妙、緻密で、おそろく簡単な物質だからこそ巧妙にならざるを得ないのだと思うのだが、とてもとても「難しい」。しかし、ここがポイントだ。これを単なるメカニズムのお勉強と思わずに時間をかけて眺めてほしい。それがわかった時、これが森を作り、地球生態系を作っていくすごさわかってくる。そこから、人間が開発してきたエネルギーの技術が、じつはかなり荒っぽいもので、生きものとはあまり相性がよくないことも見えてくる。

このような感覚なしにエネルギー問題を語ると、エネルギー使用量が減ると生活レベルが下がるのではないかという類いの話になってしまう。そうではなく、生きものの一つである人間として、地球すべてに目を向け、長い時間に思いをはせれば、大量のエネルギーを集中的に生産、消費せずとも豊かな生き方はできるはずだ。

研究館のオサムシの進化の展示の解説にこう

書いた。「オサムシは、ゲノムに変化を蓄積しながらも形を変えることなく、長い時間を過ごし、ある時一斉に形態変化を起こした。一斉放散である。この一斉が、じつはだいたい1500万年間なので、「生物学者は何を考えているのだ」とお叱りを受けた。日常感覚からは確かにそうだ。でも40億年という歴史の中では、これは一斉と言ってよい。5分間で答えを出ささいという時間もあれば、このような時間感覚も必要だ。生きものを見ていると思う。

これからも、このようなことを考えるテーマを取り上げ、生きものを知る面白さを楽しみながら、人間のあり方を考えるという作業を続けていきたい。

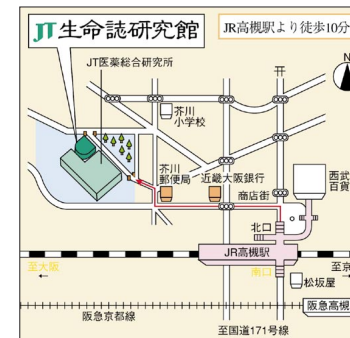
「私たちはどこから来た何者なのか。そしてどこへ行くつもりなのか」。生命誌研究館は、この問いをじっくり考える場だ。具体的には、生きものの構造と機能、さらにはその歴史と相互の関係を研究し、生命の歴史物語を描くことを出発点とし、それを日常生活や科学技術との関連、思想や芸術とのつながりのなかに置いて、これからの生き方を探るということの日々を考えている場だ。それより何より、生きものを知る楽しさを多くの方と共有したい。積極的な参加をお待ちしている。

(中村桂子)

BRH

JT生命誌研究館 Information

[開館日]毎週火曜～土曜(祝日の場合も開館)の10:00～16:30(入館は15:30まで) 入場無料
[常設展]オサムシの進化、ビデオライブラリー、インタラクティブ・ラボほか
[特別展]骨と形 骨ってこんなに変わるもの?、オサムシ 見えてきた進化の姿、光合成 生き物とエネルギー(～2002年3月)、脳の生命誌 仮説を楽しむ(～2003年3月)
[ホームページアドレス]http://www.jtmet.ad.jp/BRH/
[お問い合わせ先]tel.0726-81-9750(代表)



BIOHISTORY Vol.9 No.1,通巻30号 Summer

発行日	2001年7月1日
発行	JT生命誌研究館 〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 tel.0726-81-9755 fax.0726-81-9744(編集部) Eメール biohist@ims.brh.co.jp
プロデュース	中村桂子
チーフ	工藤光子
エディトリアルヘッド	高木章子
エディット	鳥居信夫 北地直子 桑子朋子
アート・ディレクション	松田行正
デザイン	斎藤知恵子
制作	プラス・エム株式会社
写植・版下	株式会社モリヤマ
印刷・製本	ジェイティブロスプリント株式会社 関西支店